

遠隔生涯学習講座

2016年8月11日

多摩交流センター会議室

# 統計が語る日本の大学

大橋秀雄

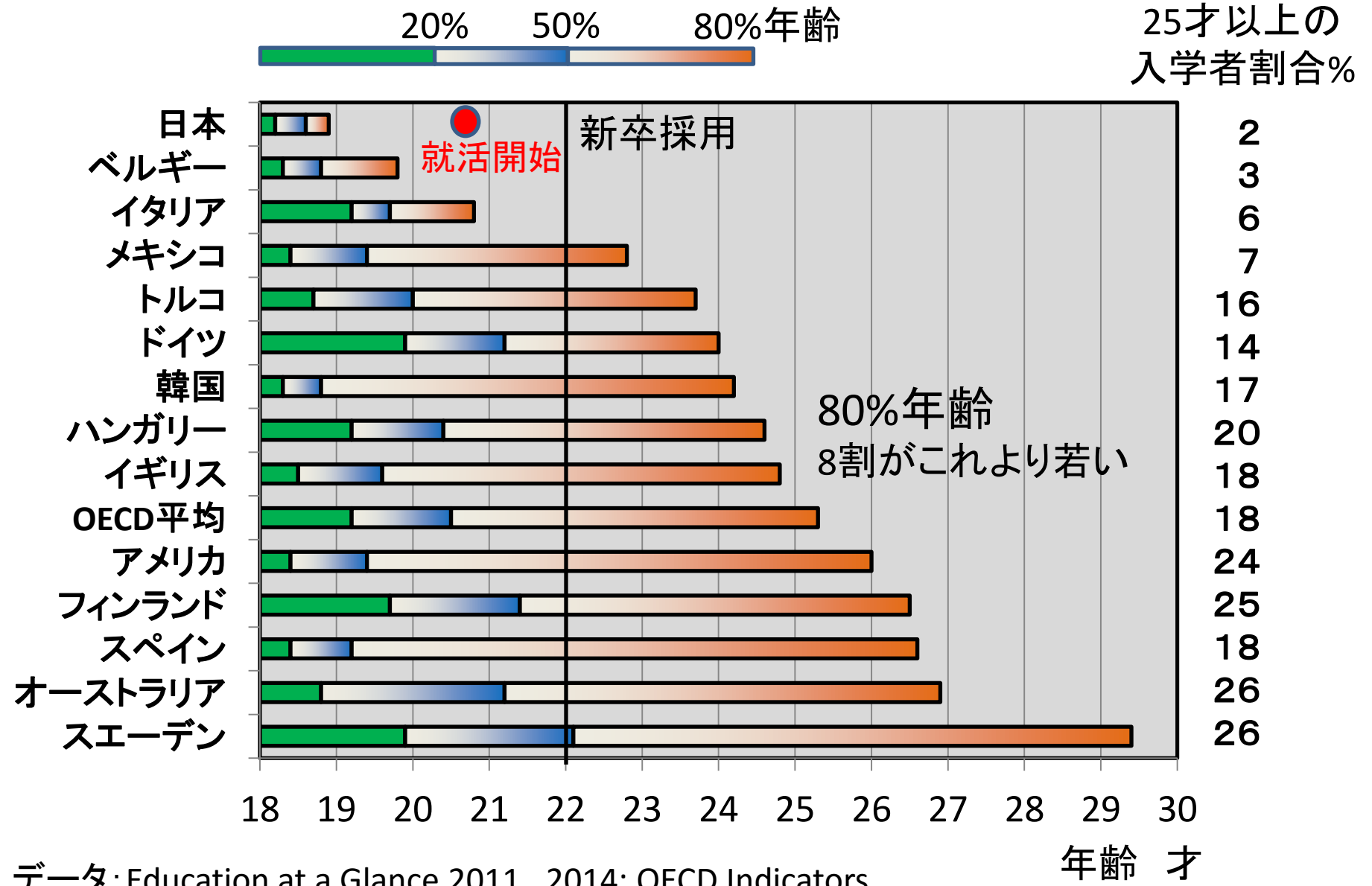
## 簡単な自己紹介

- 1931年東京で生まれる。男性，既婚，子供男二人，孫男四人
- 杉並第四小学校卒，都立第四中学校(現戸山高校)に1年間在籍。
- 1945年4月、西八王子にあった東京陸軍幼年学校に入学。4ヶ月半で敗戦により廃校，疎開先の新潟県立村松中学校2年に編入，中学4年が終わると新制村松高等学校2年生に早変わり。大学に入るまでは，戦争，敗戦，疎開，学制改革と目まぐるしい青春時代過ごす。
- 1954年東京大学工学部機械工学科を卒業して直ちに石川島重工業(現IHI)に就職、5年間ガスタービンおよび空気圧縮機の設計に従事。うち2年間はDAAD留学生としてドイツで研究に従事し、Dr.-Ing. を取得。
- 1959年から33年間、東京大学工学部機械工学科で教育と研究に従事。研究の中心はターボ機械の流動現象。1992年定年退職、名誉教授。
- 1992年から工学院大学教授，1994年から2003年まで9年間学長としてグローバルエンジニアの育成に努める。2003年退職、名誉教授。2003年から2011年まで8年間、学校法人工学院大学理事長を務める。
- 2011年以降、工学院大学顧問、学協会・公益団体の顧問、役員をなどを通じてご恩返しを図りながら、静かに歩む。

# 入学者の年齢分布

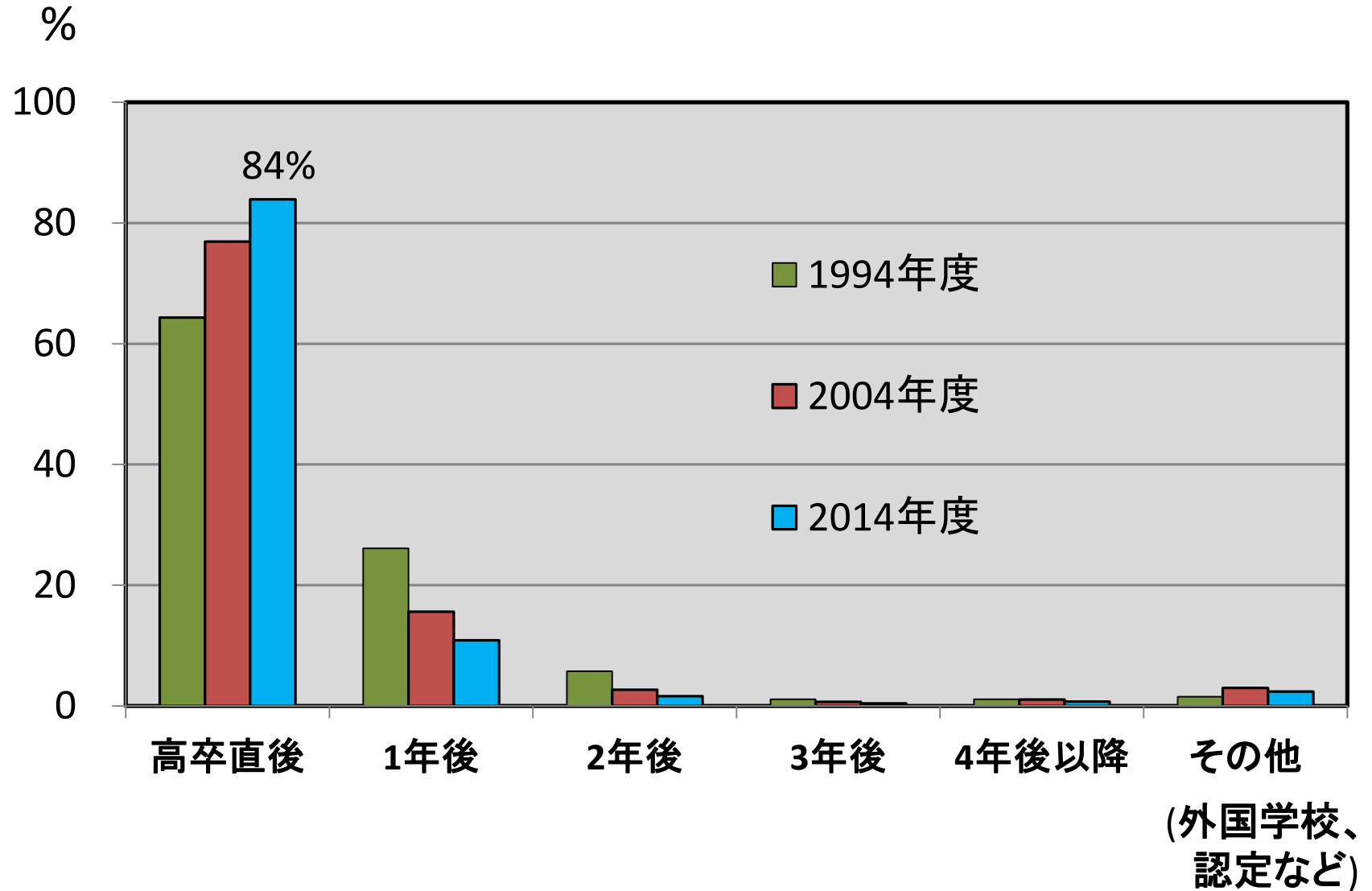
日本の新入生は**世界一若い!**

クラスの84%は高校からストレート入学  
25才以上は100人に2人



データ: Education at a Glance 2011, 2014: OECD Indicators

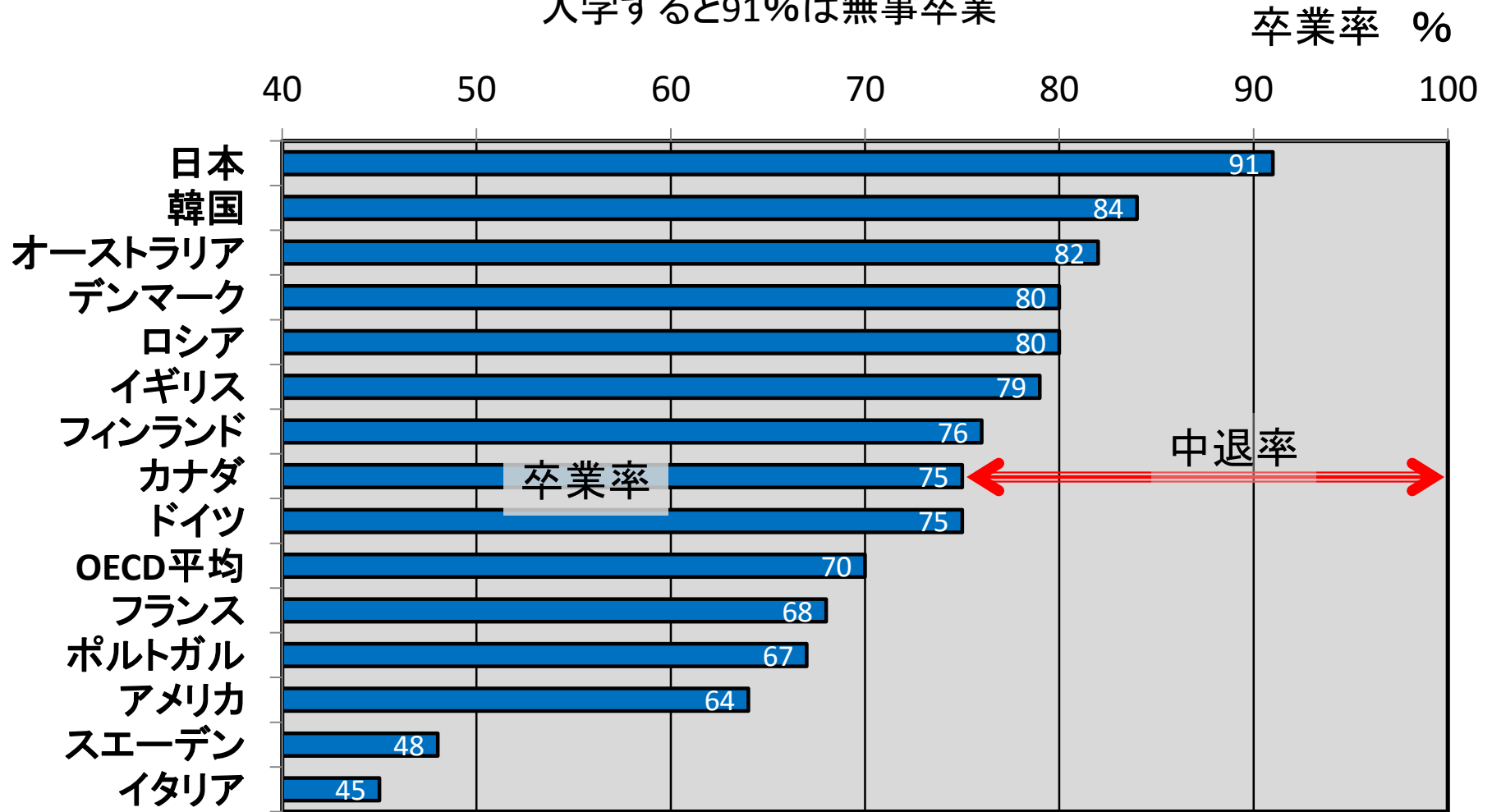
# 大学新入生の内訳



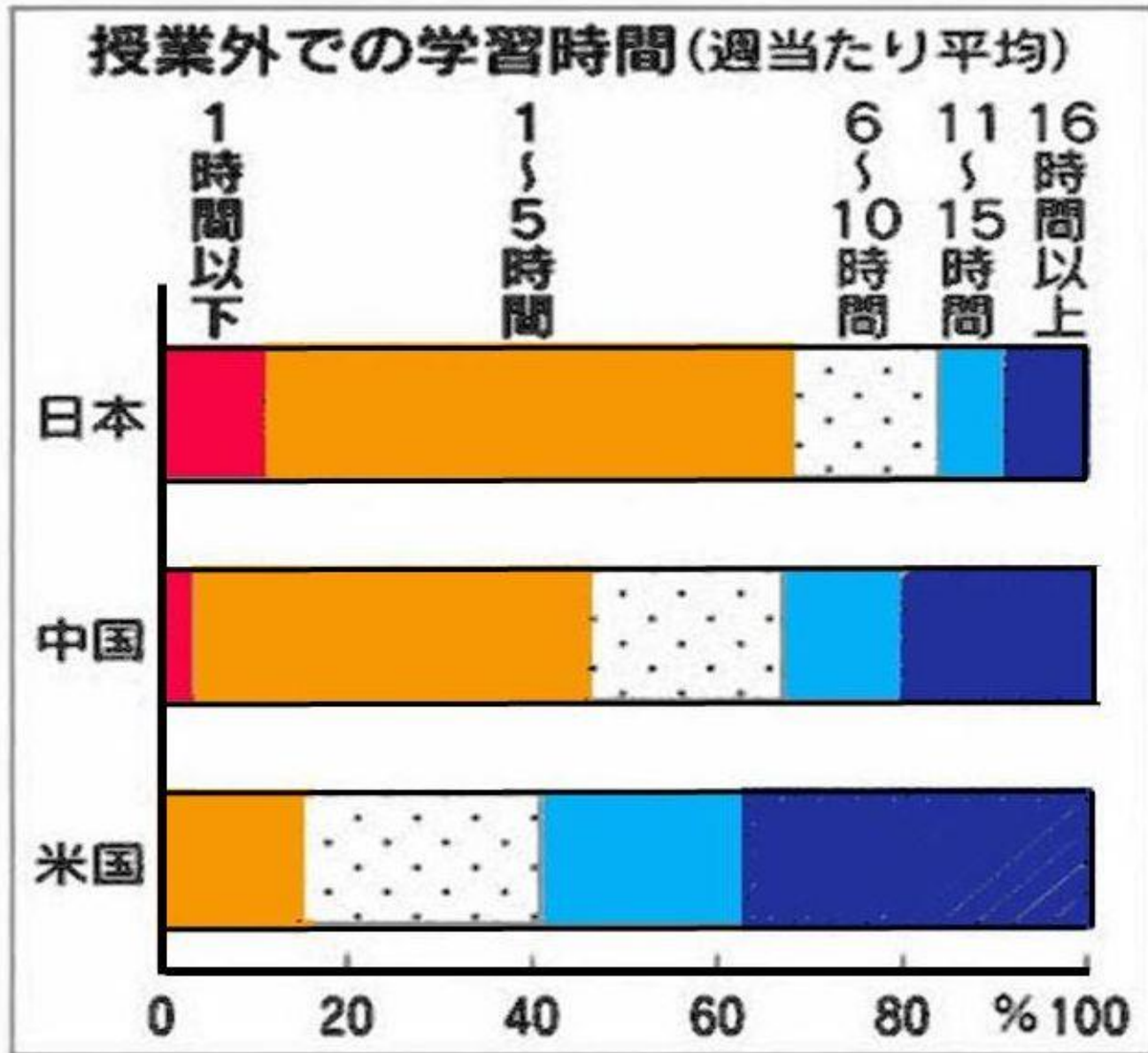
# 卒業率の比較

日本の大学、目出度く卒業率 **世界 No.1 !**

入学すると91%は無事卒業

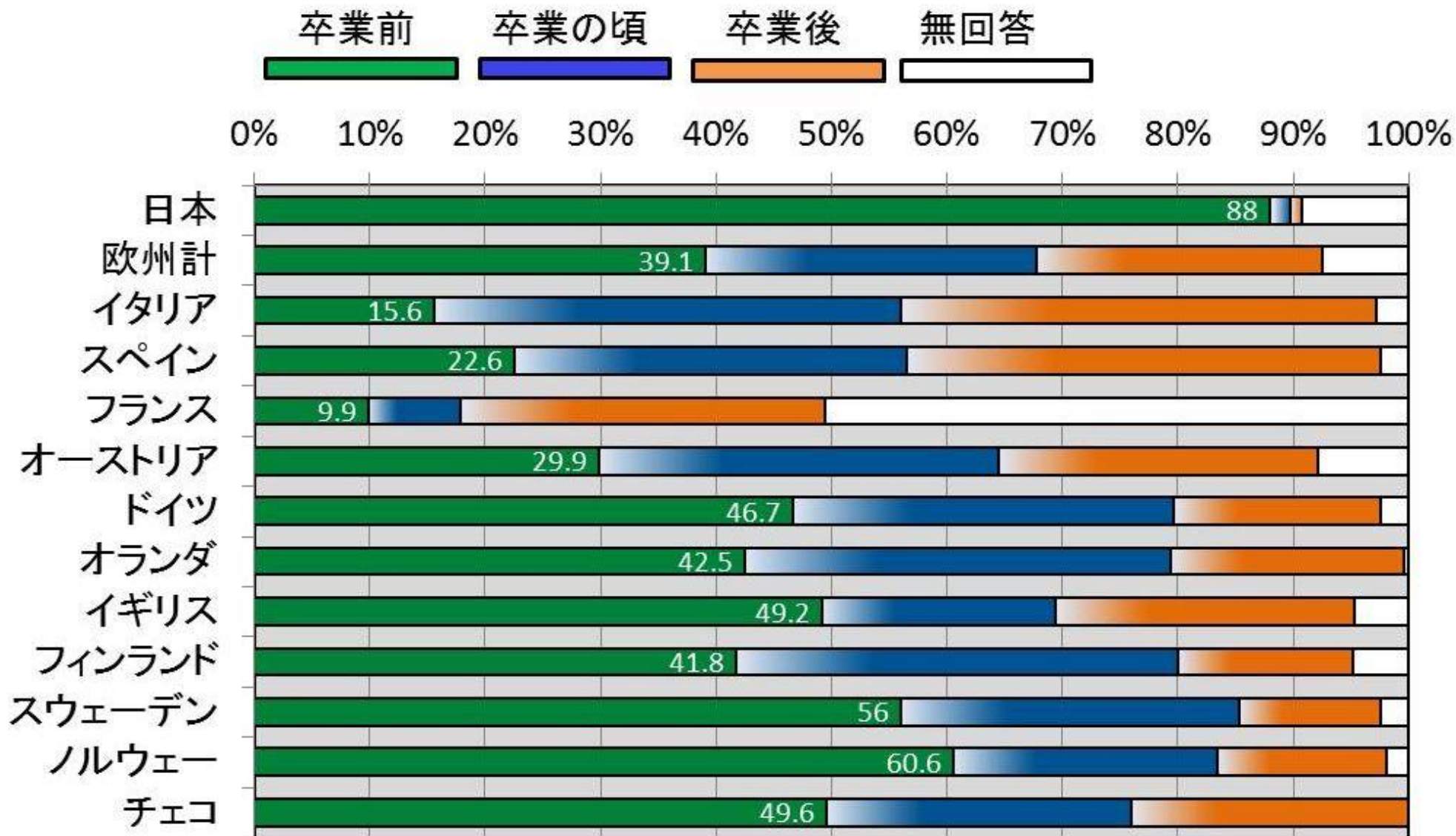


データ: Education at a Glance 2009, 2010 & 2013(last data): OECD Indicators



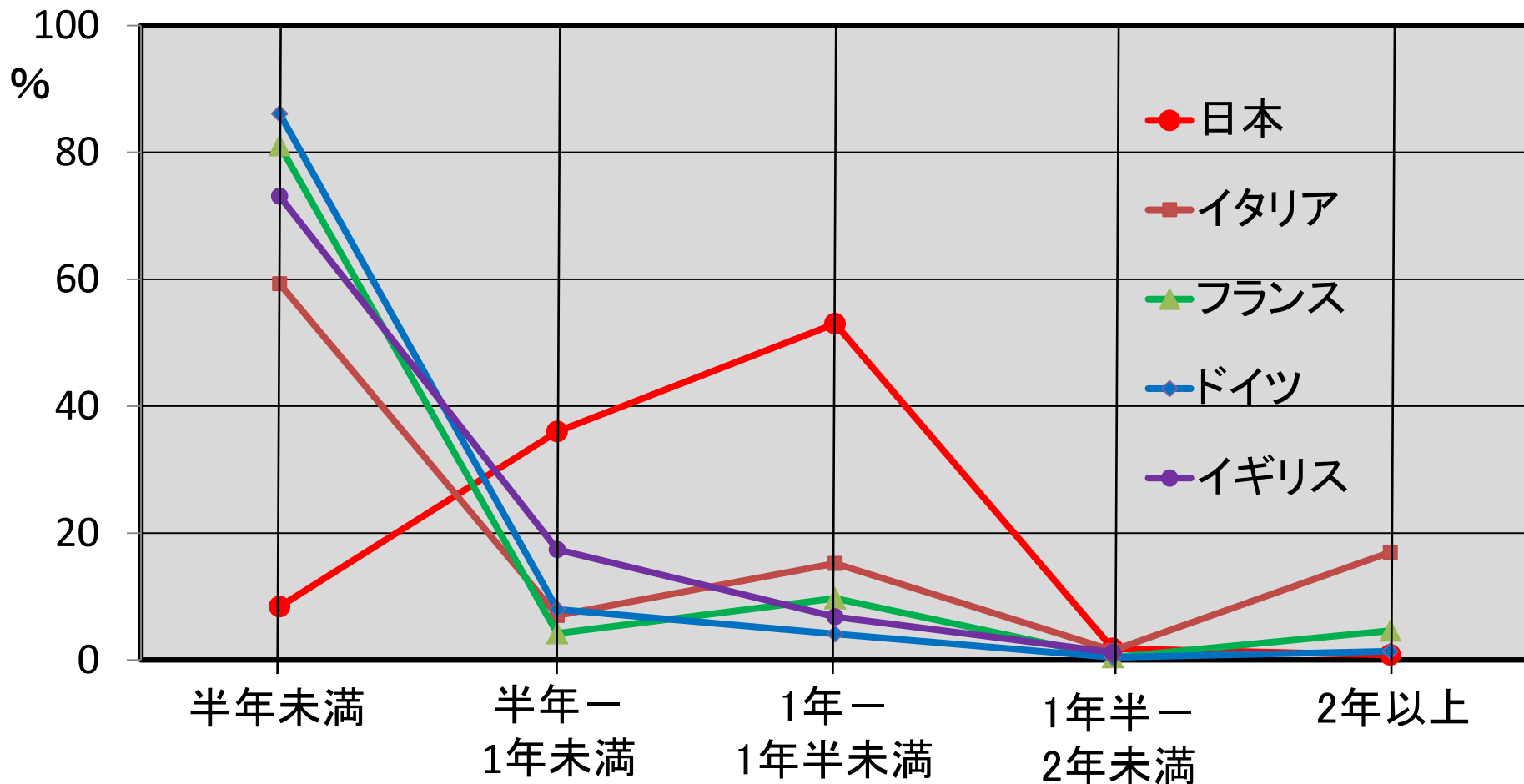
2016年6月27日 日本経済新聞朝刊18ページ 金子元久氏の寄稿から引用

# 就職活動開始時期 日欧比較



データ: 労働政策研究・研修機構「日欧の大学と職業」(平成13年3月)、調査対象1995年学部卒業生

# 就職活動期間の長さ

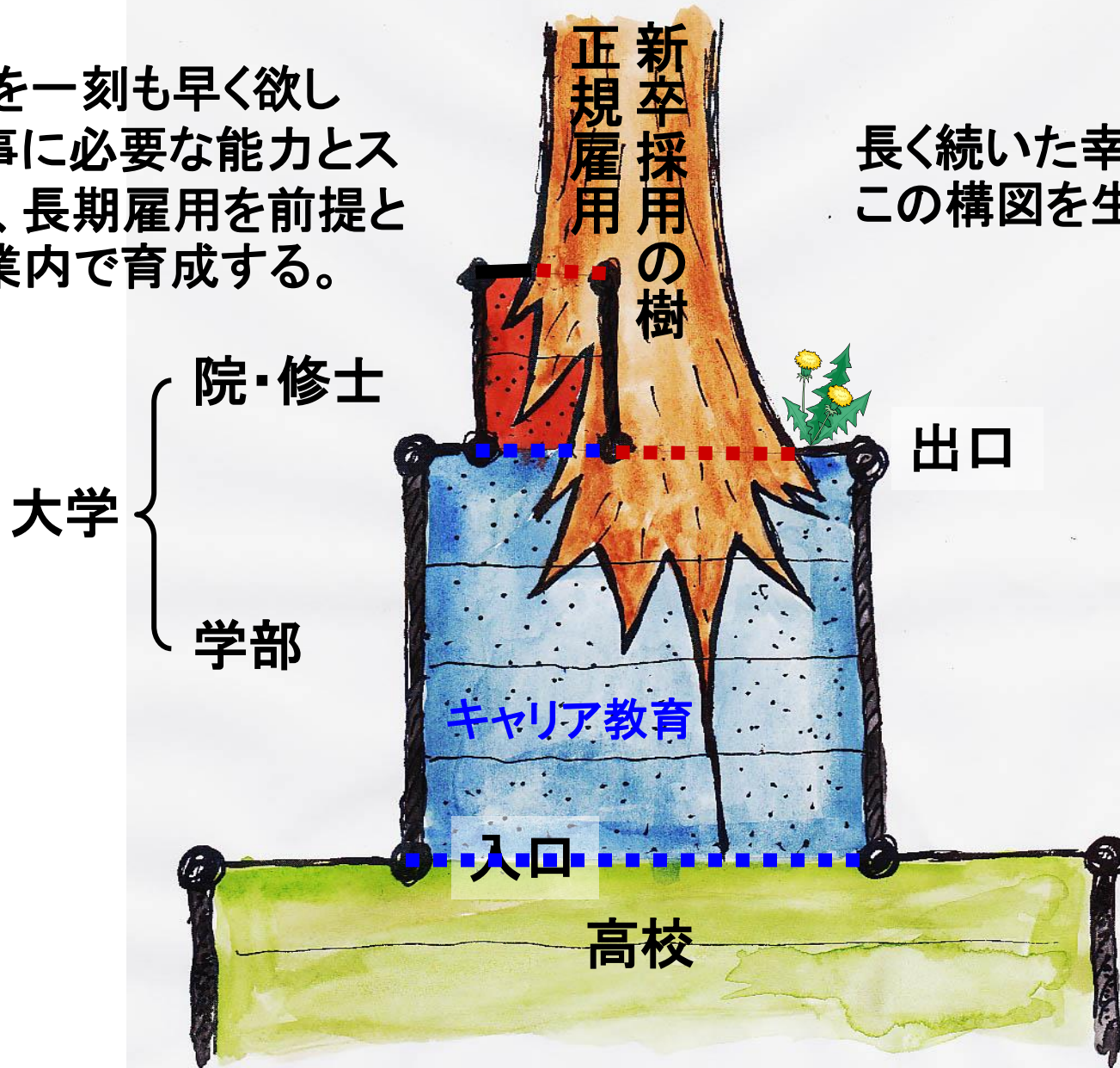




# 大学と職業の接続 単線モデル

若い人を一刻も早く欲しい。仕事に必要な能力とスキルは、長期雇用を前提として企業内で育成する。

長く続いた幸せな状況がこの構図を生んだ。



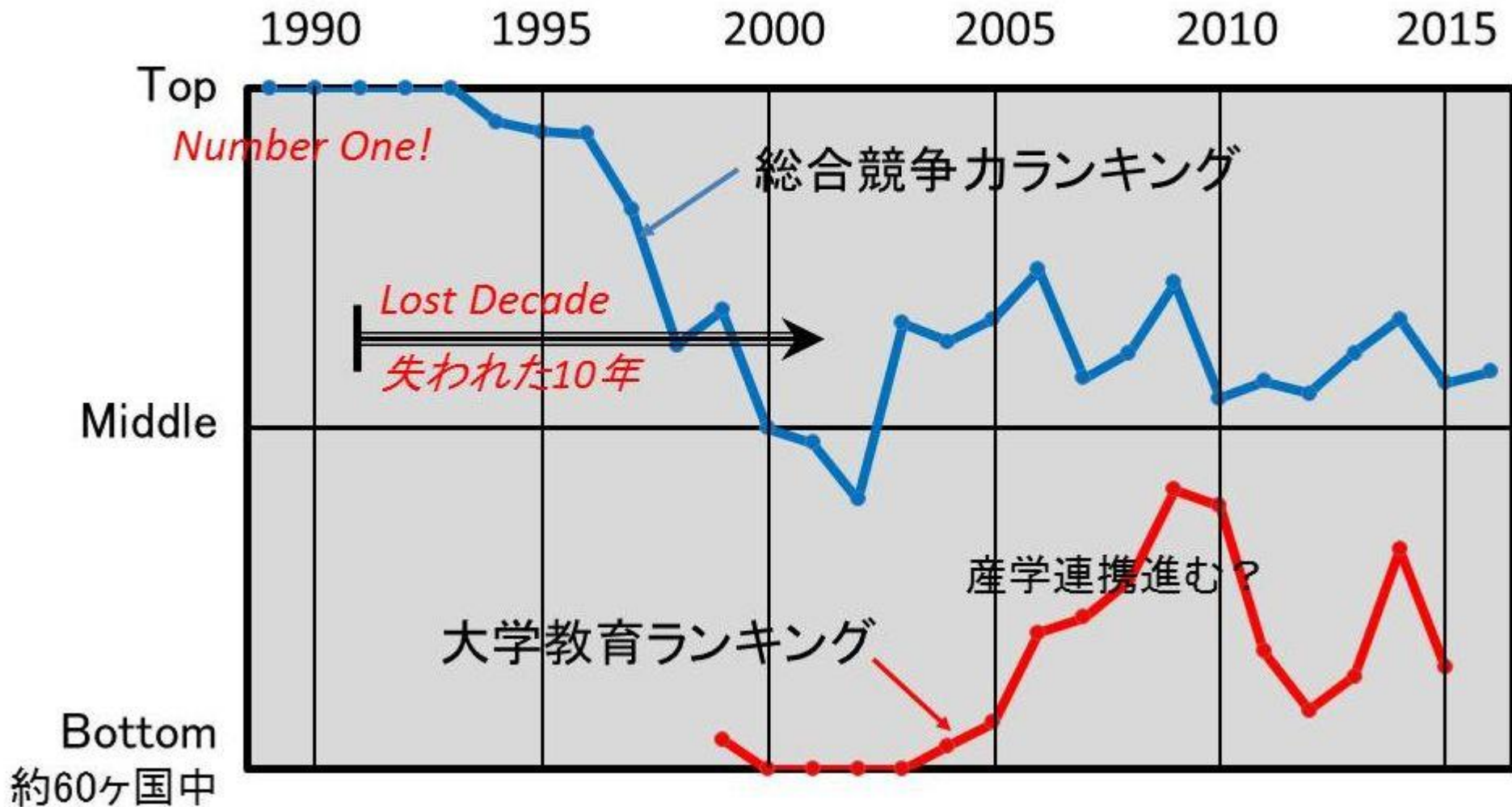
# IMD 世界競争力年鑑による日本のランキング



総合競争力 330余の項目別評価から総合



大学教育 Does it meets the needs of a competitive economy?



# IMD 世界競争力年鑑による日本のランキング



総合競争力 330余の項目別評価から総合



大学教育 Does it meets the needs of a competitive economy?

1990 1995 2000 2005 2010 2015

Top

*Number One!*

総合競争力ランキング

東西冷戦の終焉、希望の21世紀?

*Lost Decade*

失われた10年

Middle

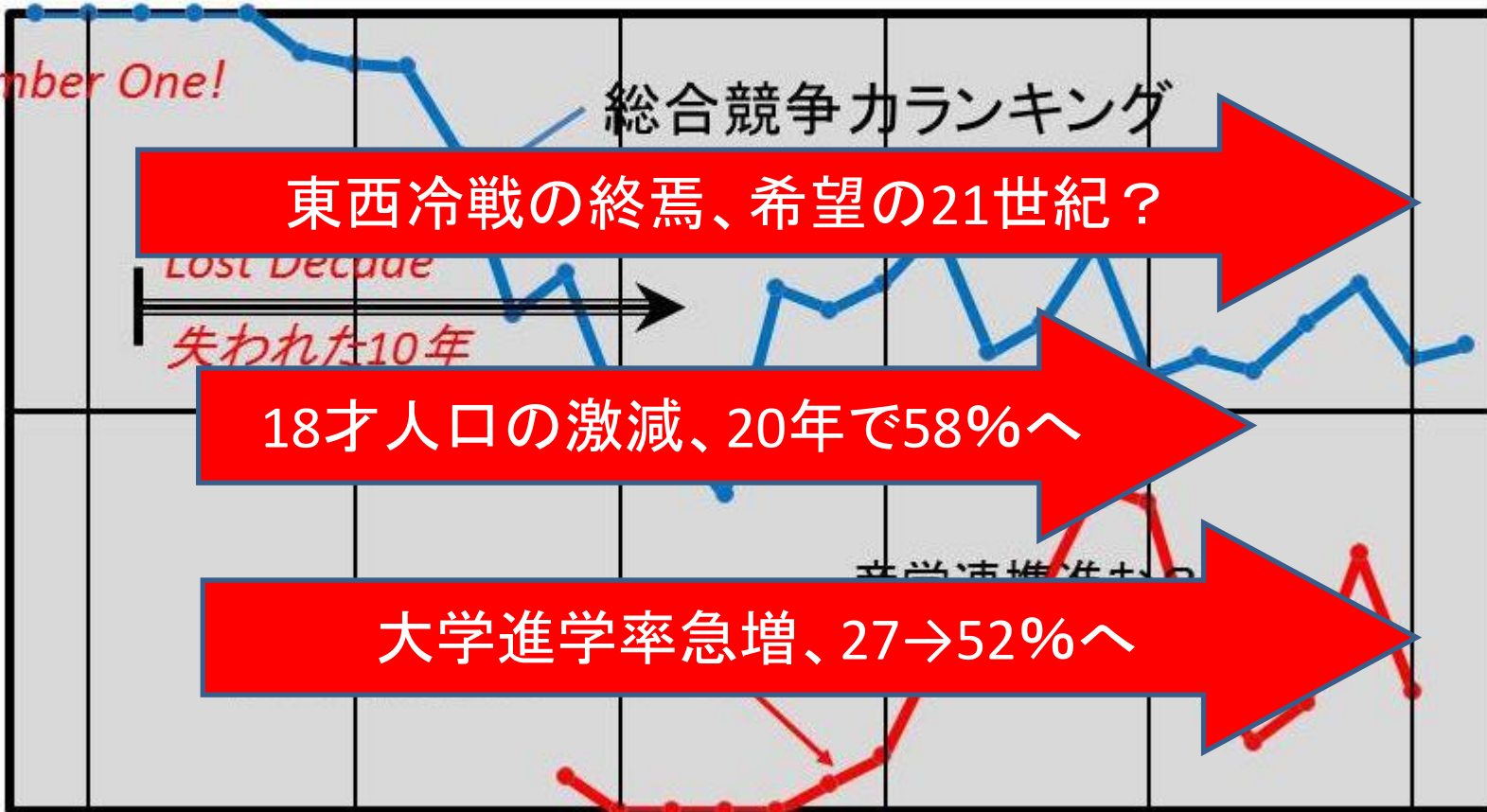
18才人口の激減、20年で58%へ

進学率急増

大学進学率急増、27→52%へ

Bottom

約60ヶ国中



# 大学と職業の接続 複線モデル

ニーズに応じて学び  
継続的に能力向上

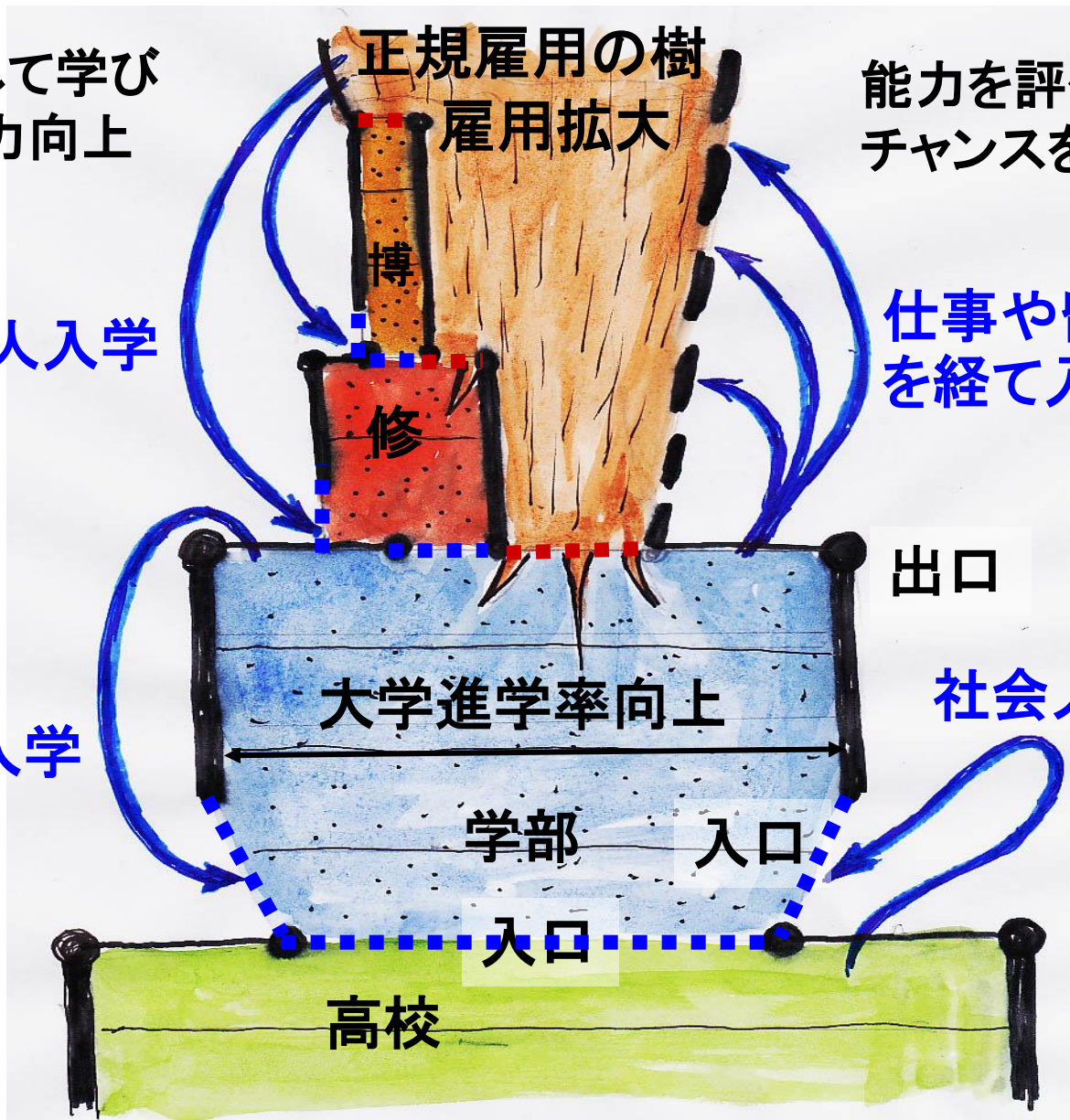
能力を評価し  
チャンスを与える

院・社会人入学

仕事や留学の経験  
を経て入社

学士入学

社会人入学



大学進学率向上

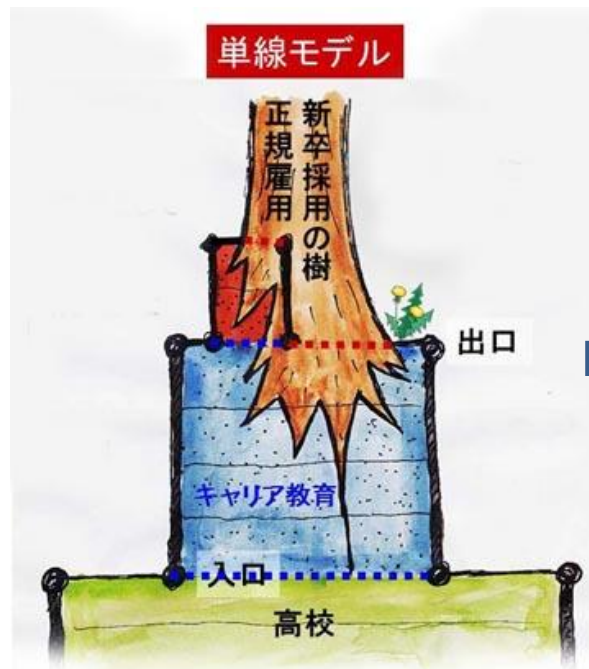
学部 入口

入口

高校

出口

# 硬直した若者のキャリアパスをもっと多様に



多様化



一度しか来ない列車  
会社任せのキャリアアップ  
学んでから働く

何度でやってくる列車  
自発的キャリアアップ  
学びつつ働く

人口減が続くなか、一人一人を強い個人に！